国見山廃寺のあらまし

国見山廃寺跡は、岩手県北上市稲瀬町内門岡地区にある古代山岳寺院跡で、北上山地西縁部の一つである国見山南麓に位置しています。

今でも内門岡地区には僧坊を連想させる地名が多く残っており、伝承によれば、700を超える堂塔、36の僧坊をもつ大寺院であったといいます。

堂塔の年代は9世紀頃から12世紀頃の平安時代とみられ、平泉より200年も前から山岳寺院として栄えていたことが伺えます。

また、数次にわたる発掘調査の結果をみても、国見山廃寺は平安時代中期の東北北部において最大の寺院跡であることが確認されており、まさにここ国見山が平泉以前のこの地方一帯の仏教の中心であったことが次第に明らかになってきています。

国見山廃寺文化と平泉中尊寺

平泉における最も初期のお寺である中尊寺とそれ以前に栄えた国見山廃寺。

同じ丘陵の尾根上に堂塔を配置するなど似ているところが多く見られます。

藤原清衡は平泉に本拠を移す前は江刺郡豊田館にいたといわれています。国見山廃寺も同じ江刺郡にありました。

清衡は、奥六郡200年の歴史を持つ仏教聖地・国見山廃寺をモデルとして平泉に中尊寺を建立したのかもしれません。

国見山廃寺年表

時代	世紀	暦年	日本の出来事	北上盆地の時代区分と国見山廃寺
奈良時代	8世紀	741	聖武天皇が国分寺建立の詔を出す。	エミシの時代
		752	東大寺の大仏が完成する。	
		788	最澄、比叡山延暦寺を創建する。	
平安時代		国見山廃寺が興隆した期間（9世紀中ごろ～12世紀中ごろ）		
	9世紀	794	平安京に都を移す。	胆沢城の時代 9世紀中頃、堂が建てられる。
		802	坂上田村麻呂が胆沢城（奥州市）を築く。	
		803	坂上田村麻呂が志波城（盛岡市）を築く。	
		816	空海、高野山金剛峰寺を建立する。	
		857	陸奥国の極楽寺が定額寺とされる。	
		862	黒石寺（奥州市）の薬師如来像が作られる。	
	10世紀	907	唐が滅亡する。	国見山廃寺
		935	平将門の乱（～940）	安倍氏の時代 10世紀中頃、塔が建てられる。 瓦を用いた堂が建てられる。 10世紀後半、阿弥陀堂、正面に広場を持つ堂などが建てられる。
		939	藤原純友の乱（～941） （10世紀後半、胆沢城の機能が衰退する）	
		969	安和の変（摂関政治が確立する） （末法思想、浄土思想が広まる）	
		985	源信が『往生要集』を完成する。	
	11世紀	1020	藤原道長、法成寺（京都市）を建立する。	隆盛期を迎える
		1051	前九年の合戦（～1062）、安倍氏滅ぶ。	
		1052	（末法の時代に入る）	
		1053	藤原頼通、平等院鳳凰堂（宇治市）を建立する。	
		1083	後三年の合戦（～1087）、清原氏滅びる。 （平泉藤原政権が誕生）	清原氏の時代 11世紀後半、七間堂（最大の建物）が建てられる。
	12世紀	1105	藤原清衡、平泉に最初院を建立する。	平泉藤原氏の時代 12世紀前半、山地部の建物がほとんど無くなる。
		1126	中尊寺が完成する。	
		1160	秀衡の妹、白水阿弥陀堂（いわき市）を建立する。	
		1185	壇ノ浦の合戦。平氏滅ぶ。	鎌倉時代
		1189	奥州合戦、平泉藤原氏滅ぶ。	
		1192	源頼朝、征夷大将軍になる。	

「国見山廃寺跡」webサイト公開中

国見山廃寺跡の詳細情報や
現地の最新情報を発信中です。

【PC】
http://kunimi.kitakami-kanko.jp/

【モバイル】
http://kunimi.kitakami-kanko.jp/m/

■入山の際は、クマにご注意ください!

国見山・珊瑚岳一帯はツキノワグマの生活圏です。不慮の事故を招かないよう十分注意してください。

【クマに出会わないようにするために】

・できるだけ複数で行動する。
・鈴やラジオなどで自分の存在を周囲に知らせる。
・生ごみは放置せず持ち帰る。
・新しい足跡やフンを見つけたらすぐに引き返す。
・クマの活動する夜間、明け方、夕方の入山を避ける。
・音が消される強風時や悪天候時は特に注意する。
・撃退グッズ（忌避スプレー、鉈など）を携帯する。

もしもクマに出会ってしまったら、持ち物（帽子や服など）を静かに置いて注意をそらしながらゆっくりと後退してください。万がークマが攻撃してきた場合は両手で顔や頭をカバーし防御することで致命傷を防ぎましょう。

また、子グマのそばには必ず親グマがいます。かわいいと思っても、決して近寄らないでください。

国見山廃寺跡ウォーキングガイドマップ

発行　**北上観光協会**
〒024-0061　岩手県北上市大通り1-3-1おでんせプラザぐろーぶ1F
TEL:0197-65-0300　FAX:0197-65-0393

きたかみ魅力辞典　きたかみ魅力辞典　ウェブ検索

北上市緊急雇用創出事業　平成24年3月発行

国見山廃寺跡
ウォーキング ガイドマップ

北上観光協会

6 経　蔵

4.5m四方の小規模のお堂で、この建物の付近から鬼瓦、軒丸瓦、軒平瓦などの瓦が見つかっていることから、国見山廃寺唯一の瓦葺きの建物で、お経を納める経蔵であったと考えられます。
瓦葺きの屋根にすることで、大切なお経を山火事から守ろうとしたのです。

5 本　堂

国見山廃寺の初期より五回にもわたり建物が作り替えられた唯一の場所であり、代々の本堂があったと考えられます。11 世紀後半には、最大規模を誇る 21.7m×8.2m、七間堂というタイプのお堂が建てられていました。
お堂の中には、1.8m×0.9mほどの小さな石組みがあり、石組みの周りから土でできた螺髪が見つかったことから、ここに納められていた仏像は1.2mほどの型像であり、国見山廃寺が開かれたころより大切に守られてきた本尊であったと考えられます。

4 大日堂

江戸時代に大日堂が置かれた場所が近くにあるため、大日如来を祀ったお堂と考えられます。

3 八幡神社

江戸時代に八幡堂が置かれたこの場所には、かつて八幡神社があったと推測されます。建物自体は、4.8m×4.2m ほどですが、社の前に広大な空間が広がっており、極楽寺に青銅龍頭（国指定重要文化財）などの庭儀用の道具が伝世していることや、八幡神社が武神であることから、武を持った人々がこのお堂の前で庭儀を行い、戦勝祈願をしていたのではないでしょうか。

8 開山堂

4m×3m ほどの『祠』といってもいいほど小さなお堂が伽藍の最も奥まった場所にありました。西端に西を背にして建てられており、参拝者は正確に真西を拝むように作られていることから、西方極楽浄土にいるお寺を開いた和尚を祀った開山堂と推定され、この場所から八稜鏡などの神聖な仏具も見つかっています。

7 地主神社

本堂・経蔵から一段奥まった小高い場所に、3m×4.6m ほどの住吉造りの小さな神社がありました。
山に寺院を置く場合、その土地の神に安泰と繁栄を祈願する風習があったことから、ここは土地神が祀られた地主神社であったと考えられます。

9 多宝塔

五重塔と対をなす極楽寺山の突端に建っていた 4.9m 四方の建物で、大きな荷重に耐えられる構造であることから、天台密教系の特徴的な塔である多宝塔であったと考えられます。
在りし日の国見山廃寺には五重塔と多宝塔のふたつの塔が谷を隔てて向かい合って立っていたことでしょう。

10 胎内くぐり

火山噴出物が風化し、自然の造形によって岩の門が形作られています。
江戸時代の紀行家、菅江真澄が記した『岩手の山』にも「胎内潜」とあるように、古くからこの名前で呼ばれており、修行者たちはこの場所を通ることで自らを浄化し、新たに生まれ変わることができると考えていたのかもしれません。

11 戸木の峰

国見山は火山の噴出物により形成された山で、溶岩が固まってできた岩が風化・浸食によって自然にむき出しになっている場所が多くありますが、その中でも北上盆地にせり出した場所にひときわ大きな岩が露出しています。
北上盆地を一望できるこの場所は国見山廃寺文化における信仰の中心であり、山林修行の場として国見山廃寺が開かれるきっかけになったものと考えられます。

2 阿弥陀堂

阿弥陀堂は、国見山廃寺の伽藍の中でも本堂に次ぐ大きな建物でした。
大きさは10m四方の正方形で、中央には土盛りがあり、須弥檀があったと思われますが、その大きさから丈六の阿弥陀像が鎮座していたのではないかと考えられます。

1 五重塔

ホドヤマ（宝塔山）の頂き、国見山の何処からも見える場所に五重塔が建っていました。
大きさは4.5m四方、高さは27mほどと考えられ、現存している五重塔の中では出羽神社の五重塔と同規模、そして年代は1050年ほど前といいますから、国宝である京都 醍醐寺の五重塔と同じ頃に建てられたと考えられます。

国見山廃寺跡 ウォーキング ガイドマップ

1から9までの堂塔は、消失しており表示されているイラストは復元予想図です。